



やまなし

第90号 2015年11月25日(年3回発行)

もくじ

- 1p 認知症対策推進委員会
- 3p 精神科だより
- 4p 施設紹介
- 5p 理事会だより
- 7p 各種申請書変更のお知らせ・広告・編集後記

「地域に着目！ 認知症対策推進委員会 活動報告」

認知症対策推進委員会

【委員会発足の背景と思い】

近年、高齢化率が上がるにつれて、認知症に関する課題は社会全体の課題として捉えられている。国でも、認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)が策定され、認知症初期集中支援チームの一員として作業療法士が挙げられるようになった。山梨県でも、県内版オレンジプランが発表され、認知症施策が強化される方向性が示された。それらの動きを受け、山梨県作業療法士会(以下県士会)でも、平成26年度に認知症対策推進委員会が発足され、現在私を含め14名が委員会メンバーとして活動している。委員会発足に先立ち、理事の松田先生(住吉病院)と日本作業療法士会主催の認知症初期集中支援チーム研修会に参加させて頂いた。

研修会に参加した率直な感想は、「何とかしなければ、やばい!」であった。研修では、認知症に関する知識を再確認するとともに、社会背景や認知症初期集中支援チームの活動に至るまでの過程を知ることができ、各地域でどのようなシステムでどのような活動がされているかが垣間見られた。まず、私は研修に参加した当時、山梨県内で認知症に関する活動がどこで、どのようにされているのか、全く情報を持っていなかった。県や市がどのような方針なのか? 認知症家族の会はどこで何をしているのか? 他職種の活動は? 同じOTの活動ですら知らない状態であった。研修会前から、委員会発足の予定を知っていたため、すぐに「やるぞ!リスト」を作り、委員会での活動を思い描いた。これが、認知症対策推進委員会の始まりである。

【活動方針】

委員会メンバーは、回復期病棟、療養型病棟、訪問リハ、通所リハ、通所介護、精神科、大学教員などバラエティーに富んでおり、様々な立場から課題や思いが語られる会となった。病院や施設の中での多職種連携の課題、介護職等への支援、家族支援、地域で暮らす方の相談支援、県内情報の整理など課題は尽きなかった。多数ある課題から、委員会では「地域に向けた活動」をテーマに掲げた。理由は一つ、「今地域に注目する時代だから」である。研修会で感じた危機感を元に県内の

活動を調べた結果、他職種や家族の活動に比べ、OTの目に見える活動はほぼ見当たらなかった。確かに病院や施設内での課題も大きなものであるが、今はOTの存在を地域に知ってもらうことが最重要課題と考えた。

【これまでの活動内容】

初年度は周辺の情報収集が主な活動であり、インターネットや県の担当者から情報を得ることに加え、中央市の認知症カフェの視察、認知症家族会の方からの情報収集、研修会への参加などから足りない情報を得て整理していった。初年度の活動から得た情報は、昨年の3土会合同学会の教育講座で伝達する機会を得た。

今年度は、発信する活動を多くしている。私を含め委員会メンバー9名が認知症キャラバンメイトを取得したことを期に、「協会員全員サポーター計画」を謳い、県士会員向けの認知症サポーター養成講座を開催している。認知症の基礎知識を整理するとともに、地域住民側の視点からも認知症支援を考察する構成とし、多数の参加を得られている。また、山梨県社会福祉協議会などからの依頼を受け、地域住民対象の認知症予防講座を開催している。山梨市で開催した講座で好評を頂き、10月には大月市で開催するに至り、その他の市でも要請があるとのことをお話を頂いている。また、委員会メンバー個々のキャラバンメイト活動も活性化されてきており、自分の施設周辺の住民対象に講座を開催するなどの動きが始まっている。(詳しくは、12月の県学会一般演題にてお伝えする予定)



【今後の展望と投げかけ】

今後求められるのは、実践すること・実績を残すことである。県士会の枠で動いているためこのような伝達する機会を頂いたが、県内にはきっと個々で動いている方、思い描いている方がいると信じている。最も大切なのは、県士会や委員会がどう動くかではなく、県内の作業療法士がどう動くか？そしてそれをどう残せるか？であると思っている。研修会のアンケートでも、「認知症の方に作業療法士ができることを地域住民に伝える機会を作りたい」という意見が多数見られた。では、現状で「認知症の方に作業療法士ができること」をわかりやすく明確に伝えることができるだろうか？他職種と差別化ができるだろうか？日々の臨床やサービス提供の中で行っていることを、ぜひ記録に残して発信する機会が増えると良いと願う。

今後の活動として、地域住民対象の講座、県士会主催の認知症カフェ、相談支援、活動発表会などアイディアは尽きず、夢は膨らむばかりである。まだ一つも成し遂げていない状態ではあるが、夢を大きく持ち、一つでも多く実現でき、認知症支援対策推進の一役を担えるよう尽力していきたい。

精神科だより

最近の精神科医療 リカバリー

住吉偕成会 住吉病院 松田智子

私はOTとして働き始めて30年が経ちます。精神科は患者さんと長くお付き合いする事も多いので、患者さんに励まされ仕事を続けて来られたように感じています。先日も「松田さんも成長したね」と褒めて頂きました。これまでは私が心配する方だったのですが、長年の私を理解しての言葉に微笑ましく嬉しかったです。

今回は最近の精神科医療の考え方「リカバリー」についてご紹介したいと思います。

『従来の精神科医療では症状の消失に焦点があてられ、専門家主導で治療が行われてきました。しかし、治療は受けていても、なお苦しんでいる当事者の中からリカバリーの考え方が生まれました。精神疾患を持ち、症状はあっても、自分らしく希望を持って今まで失ったものを取り戻し、よりよく生きて行こうという考え方です。リカバリーの考え方が中心になった心理教育の一つにIMR(Illness Management and Recovery:疾病管理とリカバリー)があります。IMRは自分がたてたリカバリーゴールをめざすために、必要な情報や技術を学び、自分の病気を自己管理するためのプログラムです。最初に自分でリカバリーゴールをつくり、スモールステップをみんなと相談しながらつくります。他人から「毎日～しなさい」と言われてもなかなかできないです。でも「将来海外旅行に行く。そのためには金が必要。さらにそのためにアルバイトをしたい」と考えたとします。スモールステップとして、「体力をつける」「日中の仕事をしたいから朝起きるようにする」と自分で決めたらどうでしょう？やる気がでます。ゴールをめざしていく中で、「何をしても隣の人に悪口と言われるから動けない」など病気の症状が邪魔する事があるかもしれません。これを乗り越えていくためには、自分の病気はどんなもので、どのような乗り越え方があるのか知る事は効果的です。病気や薬について、ストレス対処方法について、精神保健福祉制度の利用についてなど、病気とともに生きていくために役に立つさまざまな事を学びます。「隣の人に言われている悪口は幻聴かもしれないし、無視するようにする」などと思えば、さらにリカバリーゴールに近づくことができるかもしれません。』

実は、つい最近まで再発させないように無理させない事が良い事と考えられていました。私は、働きたいと希望があっても障害年金をもらってとアドバイスし、夢をあきらめるような支援をしていたのです。その時の患者さんに本当に申し訳ないなと思っています。

今、高齢になっていく長期入院患者さんのリカバリーは何かも考えています。自分でやりたい事を決める事。食べたい物を食べる事。仲間と笑いあえる事。長く療養した仲間をいたわりあえる事。入院の中でも新しい人と出会える事。新しい事にチャレンジする事、学ぶ(これまで自分が好きだったこと国語・数学・そろばん・習字・手芸お花・病気についての知識・社会情勢など)。外に出られる。他者のために役に立つ事。ボランティアなどの社会参加。退院を目指す...本当にいろいろな可能性があります。それぞれの可能性を信じ、一日一日を大切に生きていきたいと思っています。

病院の中では、隔離拘束や医療安全・管理の考え方など日々悩む事も多いです。スタッフ間でいろいろな考えを出し合い検討していく事が大切だと感じています。難しい問題を解決していく事で、自分たちも力になっています。自分自身や同僚の可能性についても考え続け、学び続けていきたいと思っています。それが私の希望です。

【引用文献】吉見明香織：「こころの元気+」2015.9月号

施設紹介

株式会社かみよし

訪問看護・リハビリステーションかみよし
齋藤誠二

訪問看護・リハビリステーションかみよしは、平成25年4月にオープンしたステーションです。事務所は富士吉田市に構え、富士五湖地域を中心に訪問業務を行っています。年間を通じて、平均気温も低く過ごしやすい地域ではありますが、冬の時期は積雪量が多い地域であり、最高気温が0°以下の真冬日に訪問ということも稀にあります。

所在地：富士吉田市上吉田 3438-5 スターハイツC号室
(平成28年1月 事務所移転予定)

TEL：0555-73-8800

FAX：0555-73-8801

営業日時火曜日～土曜日 8:30～17:30

休業日：日曜日・月曜日・祝日・年末年始

訪問地域富士吉田市・富士河口湖町・忍野村

山中湖村・西桂町・都留市(一部)

スタッフ：看護師3名 理学療法士2名 作業療法士2名

対象者：年齢に関わらず、小児から高齢者まで受け、介護保険、医療保険(難病)を対象としています。

ご利用者様が住みなれた地域、在宅でご家族様と同じ環境で生活を安心して送れるように主治医との連携を取りながら支援を行っています。ご利用者様とご家族様の精神的、身体的な負担の軽減を図れるように看護し、その方の独自の生活スタイルを実現できるように、セラピストによる専門的なリハビリテーションにも力を入れているステーションです。また、TOTOリモデルクラブ加盟店と業務提携しており、住宅改修の提案、施工、修理までお受けしご相談にも対応しています。

当ステーションは、地域性を理解しながら看護とリハビリテーションの『協働』を大事に支援を行っています。年齢層様々なスタッフですが、ご利用者様に対するそれぞれの思いを話し合うことを大切にしています。小さいステーションであり、まだまだ成長段階ですが、5年後、10年後、その先を見据えて業務を行い、ご利用者様・ご家族様から信頼を得られ、地域の皆様に必要なサービスが提供できるようスタッフ全員努力していきたいと考えています。県士会活動を通して他施設との交流を深めていきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願いします。

理事会便り

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2015年度 第2回 理事会議事録

日時：平成27年6月11日(月)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、有泉、関谷、宮尾、松田、磯野、米山、佐尾、濱田、佐藤：14名

1. 会長(山本)

1)平成27年5月8日(金)山梨県理学療法士会交流会に山本会長、廣田副会長、古屋副会長、三瀬事務局長が出席

2)平成27年5月27日(水)三士会合同意見交換会に山本会長、廣田副会長、古屋副会長、三瀬事務局長が参加

3)平成27年5月29日(金)山梨県言語聴覚士新人会員歓迎会に山本会長、廣田副会長、古屋副会長、三瀬事務局長が出席

2. 副会長(廣田・古屋)

1)平成27年5月30日(土)日本作業療法士協会平成27年度定時社員総会に古屋会長が参加

2)平成27年5月31日(日)日本作業療法士協会第2回47都道府県委員会に古屋副会長が参加

3)平成27年5月31日(日)都道府県作業療法士会連絡協議会総会に廣田副会長が参加

3. 事務局(三瀬)

<管理部>

1)会員数520名(平成27年6月11日現在)

2)平成27年度定期総会

日時：平成27年5月21日(木)

会場：大木記念ホール

参加者：150名

委任状：207名

<財務部>

1)山梨県作業療法士会主催の研修会に関しては会員証にて会員確認を行う。確認が出来ない場合の参加費は1,000円とする

<福利厚生部>

1)新入・転入者歓迎会

日時：平成27年6月3日(水)

会場：常盤ホテル)

参加者：171名

4. 広報局(米山)

<HP管理部>

1)県土会のリーフレットを各施設へ発送した

2)来年度から広報誌のページ数を10ページから8ページへ変更する

5. 社会局(濱田)

<事業部>

1)平成27年度山梨県障害者文化展

日時：平成27年9月3日(木)~7日(月)予定

会場：ふれあい広場

6. 常設委員会(松田・関谷・米山)

<訪問リハビリテーション委員会>

1)地域リーダー会議に前田哲(甲州リハビリテーション病院)が参加

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2015年度 第3回 理事会議事録

日時：平成27年7月28日(月)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：廣田、古屋、三瀬、松田、有泉、関谷、磯野、佐尾、米山、宮尾：10名

1. 副会長(廣田・古屋)

1)平成27年7月27日(月)三士会合同意見交換会に廣田副会長、古屋副会長、三瀬事務局長が参加。山梨県作業療法士連盟については、今後リハビリテーション専門職団体協議会にて運営することを検討していく

2)山梨県介護支援専門員協会より、三士会と合同の研修会を開催したいとの要望があり、検討していく

2. 事務局(三瀬)

1)日本作業療法士協会より、作業療法推進活動用ポスターを受託した為、各所属施設へ配布していく

2)平成27年7月1日(水)中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬事務局長が参加

<管理部>

1)会員数530名(平成27年7月28日現在)

2)広報誌や学術誌、総会資料等の重量が重い郵送物は、クロネコDM便にて発送することにする

3. 学術局(佐尾・宮尾・有泉)

<生涯教育部>

1)2015 年度現職者共通研修

テーマ：事例報告と事例研究

日時：平成 27 年 7 月 26 日(日)

会場：健康科学大学

参加者：22 名

2)県士会主催の研修会の領収書とポイント

証明書は今後合わせて 1 枚としていく

4. 常設委員会(関谷・松田・米山)

<福祉用具委員会>

1)出張講座について、県内施設より相談が 5 件きている

<特別支援教育委員会>

1)ふれあいつながりつくる会を開催した

テーマ：カレーを作ろう会

日時：平成 27 年 7 月 25 日(土)

会場：甲府北公民館

参加者：23 名(発達児 6 名、父兄 6 名、
学生 4 名、スタッフ 7 名)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)第 1 回研修会

テーマ：生活行為向上マネジメント基礎
研修 概論・事例報告に向けて

日時：平成 27 年 7 月 2 日(木)

会場：男女共同参画推進センター
(ぴゅあ総合)

講師：佐藤真一(健康科学大学)

参加者：169 名

2)第 2 回研修会

テーマ：生活行為向上マネジメント補充
研修～例示症例を通しての演習～

日時：平成 27 年 7 月 22 日(水)

会場：山梨県立青少年センター

講師：佐藤真一(健康科学大学)

参加者：37 名

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2015 年度 第 4 回 理事会議事録

日時：平成 27 年 8 月 19 日(水)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、松田、関谷、磯野、佐
尾、濱田、米山、宮尾、長坂：12 名

1. 事務局(三瀬)

- 1)甲府市より甲府市在宅医療・介護連携推進会議委員の推薦について受託。委員として山本会長、ワーキンググループ委員として三瀬事務局長、松田理事を推薦する
- 2)リハビリテーション専門職団体協議会より地域ケア個別会議(模擬研修会)への参加の依頼を受託。古屋副会長、磯野理事が参加していく方向で検討

<管理部>

1)会員数 530 名(平成 27 年 8 月 4 日現在)

<福利厚生部>

1)広報用職作製におけるデザインを検討中

2. 広報局(米山)

<企画編集部>

1)平成 27 年 7 月 29 日(水)に第 89 号広報ニュースを発送

3. 社会局(濱田)

<事業部>

- 1)平成 27 年度山梨県障害者文化展について、個別に依頼をしたが協力施設なし
- 2)お達者くらぶから相生地区に対する派遣依頼があり、北川弘二(甲府城南病院)が対応していく

4. 常設委員会(関谷・松田・米山)

<特別支援教育委員会>

1)臨床作業療法に委員会の記事が掲載された

<認知症対策推進委員会>

1)認知症サポーター養成講座

テーマ：県士会員全員サポーター計画！

～認知症サポーター養成講座～

日時：平成 27 年 7 月 15 日(水)

会場：大木記念ホール

参加者：80 名

5. 臨時委員会(磯野)

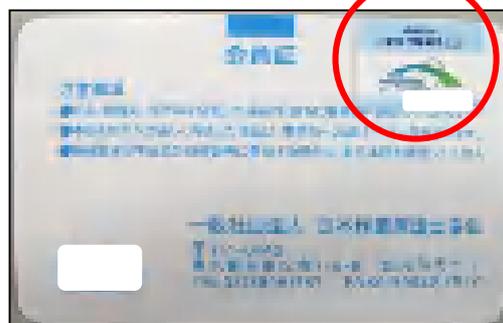
<災害対策準備委員会>

1)山梨県の JRAT(大規模災害リハビリテーション支援
関連団体協議会)について、年間活動計画を検討中

一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内
FAX：055-241-8660（代）
TEL：055-241-5811（代）



編集後記

健康診断が終わりました。今年こそ、今年こそ、今年もか、、、(ふ)

新居で焼き肉パーティー。翌日二日酔い(浅)

ホットプレートをもらいました。みんなで囲んでおいしいものを食べようと思います(松)

寒くなってきたので、今年もたくさん鍋をしたいと思います(梶)

冬に近づくとつれ、また体重が増えてきました。なんとキープできたら、、、(精進)

何食べてもおいしい季節です。さんま、きのこ、柿に肉。体力つけるぞ!(内)

発行人：山本 伸一

編集人：米山 敦・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・土屋 唯・浅川 良太・今泉 隼・精進 智規・金田 勇一・稲葉 峻太

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829